



## ICO総合指標価格は供給緩和のニュースに反応し、上昇圧力は緩む

### 生豆価格

- ・I-CIP（ICO総合指標価格）は2025年5月に平均334.41US\$セント／ポンド(以下同)となり、2025年4月比0.4%下落
- ・コロンビアマイルドとアザーマイルドはそれぞれ4月比0.4%、1.3%上昇し、5月に平均395.59セント、397.84セントを記録。ブラジルナチュラルは0.5%上昇の380.02セントとなった。ロブスタは3.5%下落し237.76セントとなった。
- ・コロンビアマイルド－アザーマイルド間の価格差は4月の1.30セントから5月には－2.25セントへ縮小した。
- ・ロンドン先物とニューヨーク先物間の裁定差は6.6%拡大し、5月に143.58セントとなった。
- ・I-CIPの日中変動率は4月比0.1ポイント低下し、5月平均11.1%であった。
- ・ロンドン市場のロブスタ認証在庫は4月→5月で28.1%増の92万袋となった。アラビカ認証在庫も9.4%増の93万袋となった。

### ・ コーヒーグループ別輸出生豆

#### 生豆輸出（グリーンビーンズ）品目別（2025年4月）

- ・ 生豆総輸出量は1,020万袋で前年同月1,094万袋と比べ、6.8%の減少となった。
- ・ コロンビアマイルドは87万袋で、前年同月86万袋から1.1%の減少となった。
- ・ アザーマイルドは216万袋で、前年同月213万袋から1.5%増加した。
- ・ ブラジルナチュラルは319万袋で、同373万袋から14.4%減少した。
- ・ ロブスタは398万袋で、同423万袋から5.8%減少した。
- ・ コーヒー年度2024/25（10月～4月）における生豆輸出のアラビカ系シェアは59.9%から63.3%に上昇した。

### 地域別のコーヒー輸出生量－全形態（25年4月）

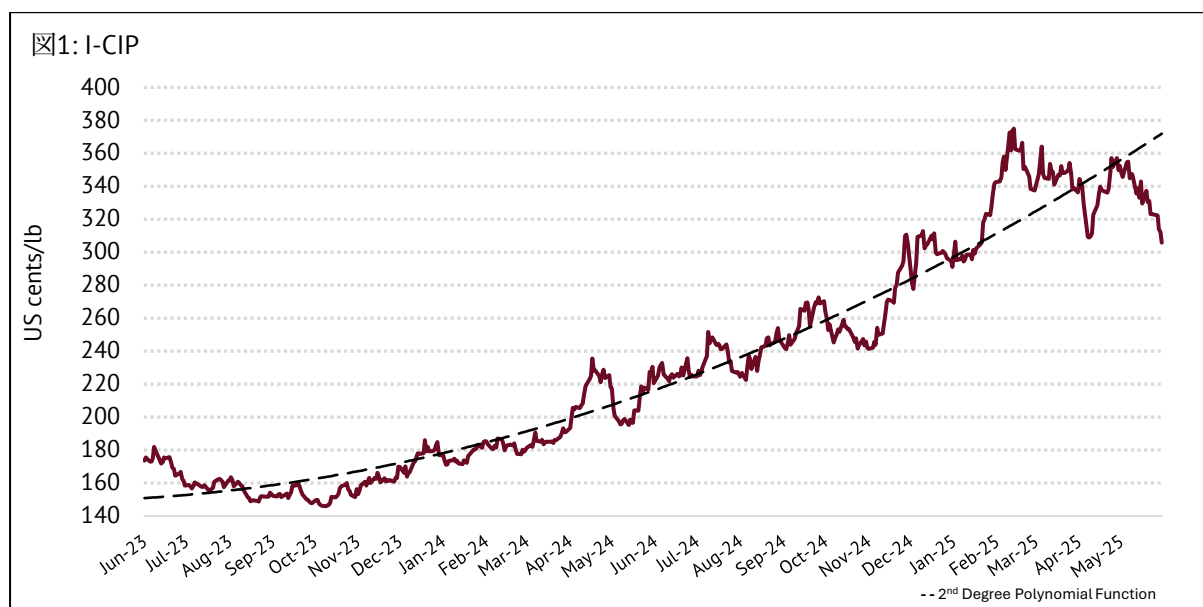
- ・ 世界全体で1,143万袋の実績。前年同月1,209万袋より5.5%減少した。
- ・ アジア・オセアニアは414万袋で、同382万袋より8.3%増加した。
- ・ アフリカは180万袋で、同138万袋より30.2%の大幅増となった。
- ・ 南米は、371万袋で、同518万袋より28.4%減少した。
- ・ メキシコ・中米は178万袋で、同171万袋より4.1%増加した。

### 形態別コーヒー輸出生量(25年4月)

- ・ ソリユブルコーヒーの総輸出生量は113万袋で、前年同月107万袋より6.0%増加した。
- ・ 焙煎豆輸出生量は8.76万袋で、前年同月7.53万袋より16.4%増加した。

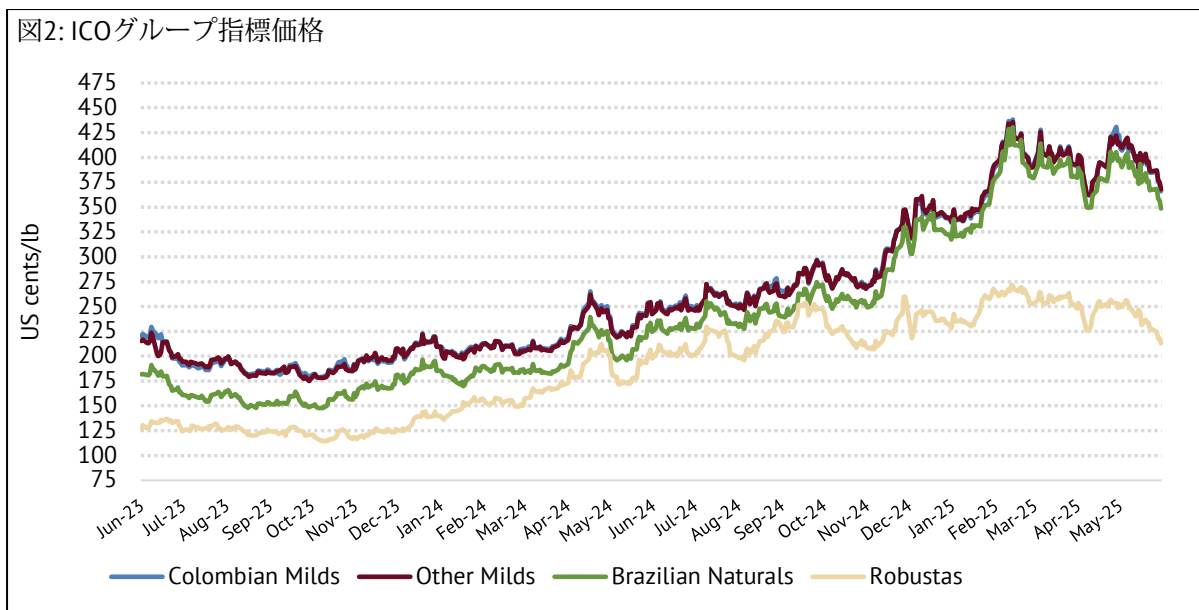
## 生豆価格

ICO総合指標価格（I-CIP）は2025年5月に平均334.41セントとなり、2025年4月比0.4%下落した。I-CIPの中央値は335.49セント、変動幅は305.96～355.00セントとなった。5月を通じて下落トレンドとなった。2024年5月比では60.5%上回り、12か月移動平均は288.70セントとなった。



コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格は4月比それぞれ0.4%、1.3%上昇し、5月に平均395.59セント、397.84セントを記録。ブラジリアンナチュラルは0.5%上昇の380.02セント、ロブスタは3.5%下落の237.76セントとなった。ロンドンICE市場が主因となり4.7%下落の224.63セントとなり、一方ニューヨークICE市場は0.6%下落の368.21セントにとどまった。

図2: ICOグループ指標価格



特定の事象、マクロ経済動向、地政学的要因が複合的に作用し、市場には一定のネガティブ不確実性が生まれた結果、2025年5月には若干の下落トレンドが確認された。実際、5月のICO複合指標価格は四カ月平均値のボトムである334.41セントを記録し、今年1月の310.12セント以来の低水準となった。こうした価格の動きは、強気要因と弱気要因が交錯するなかで方向探しの様相を呈しているが、総じて強気要因がやや優勢と見られる。

#### 強気要因:

- ・ニューヨーク連銀の消費者期待調査では概ねポジティブな結果が示され、家計の支出余力は低い負債増加率と貯蓄減少ペースの緩やかさ、低い消費者センチメントがコーヒー消費を下支えしている。

#### 弱気要因:

- ・米国農務省の主要生産国に関する半期見通しでは供給増を見込んでおり、ICI複合指標価格にネガティブな圧力が及ぶ見通し。ブラジルは2024/25年産で0.2%増、ペルーは2025/26年産で8.0%増が予測されている。
- ・米国気候予測センターは2025年10月までENSO（エルニーニョ・南方振動）がニュートラルのままと予測。通常エルニーニョ期には南米で開花期の豪雨リスクが高まり収量にマイナス影響が出やすいが、2025年にはエルニーニョが発生しない見込みで、豊作を予想される。
- ・フーシ派が攻撃停止を表明したことで、東アフリカ産生豆の欧州向け輸送時間が改善し、スエズ運河の通航正常化も進む見込み。これにより船積み在庫の減少、短期的な市場供給増、輸送コスト低減が期待される。

- 世界第2位ロースターJDE Peet'sの2025 第一四半期決算説明会では、高止まりするコディティ価格を受けて値上げを検討中と発言。需要への影響が懸念される。
- 米国の貿易関税を巡る不確実性は依然残り、景気後退リスクを高めて需要に弱気バイアスがかかる要因となっている。

**情報ボックス:**

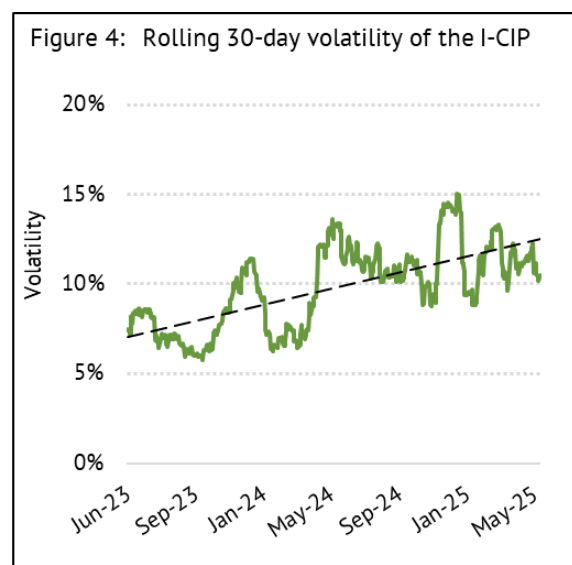
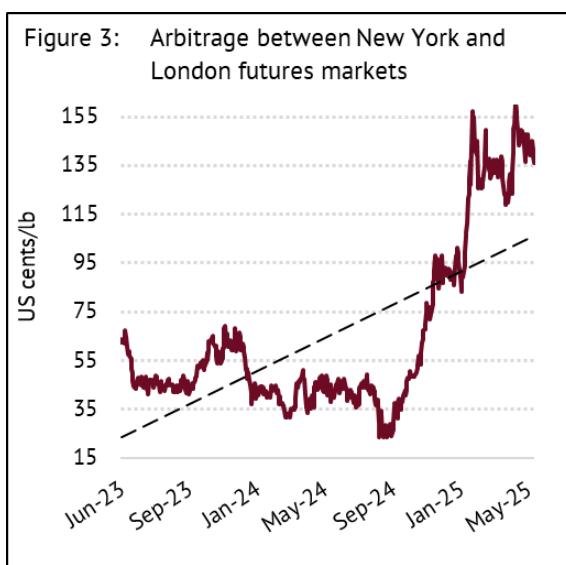
2025年5月29日付でICE Futures U.S., Inc.は米商品先物取引委員会（CFTC）に、既存のコーヒー「C」先物契約を廃止し、年内に新たなアラビカ先物契約を上場する旨を通知した。2028年3月限が現行の先物および通常オプション契約の最終償還月となる。新契約は米セント/ポンド（37,500ポンド単位）ではなく米ドル/メトリックトン建てとなり、FIBC（フレキシブル・インターメディアイト・バルク・コンテナ）での保管を可能とする。新コーヒー先物・オプションのルールおよび仕様は、同委規則に基づき提出予定。

コロンビアマイルドとアザーマイルド間の価格差は、2025年4月の1.30セントから5月にはマイナス2.25セントへ縮小した。コロンビアマイルド・ブラジルナチュラル間の差は1.9%縮小し15.57セント、コロンビアマイルド・ロブスタ間の差は6.8%拡大し平均157.83セントとなった。一方、アザーマイルド・ブラジリアンナチュラル間とアザーマイルド・ロブスタ間の差はそれぞれ22.4%、9.3%拡大し、17.83セント、160.09セントに、ブラジルナチュラル・ロブスタ間の差は7.9%拡大の142.26セントを記録している。

ロンドン先物市場とニューヨーク先物市場間のアービトラージは6.6%拡大し、5月に143.58セントとなった。

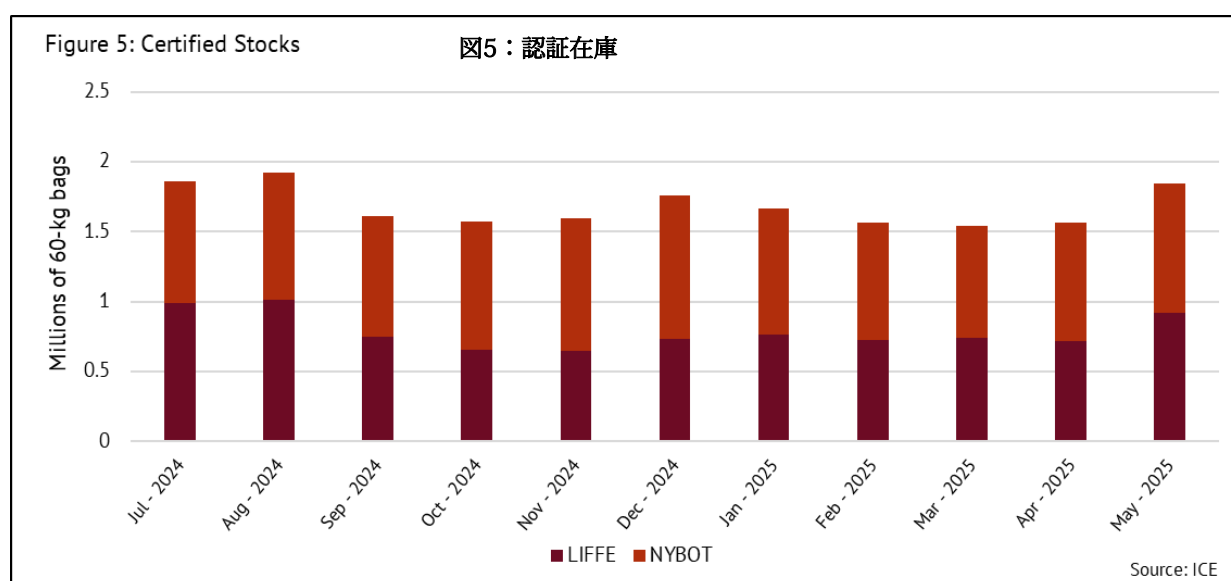
図3：ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ

図4：I-CIPのボラティリティ30日移動平均



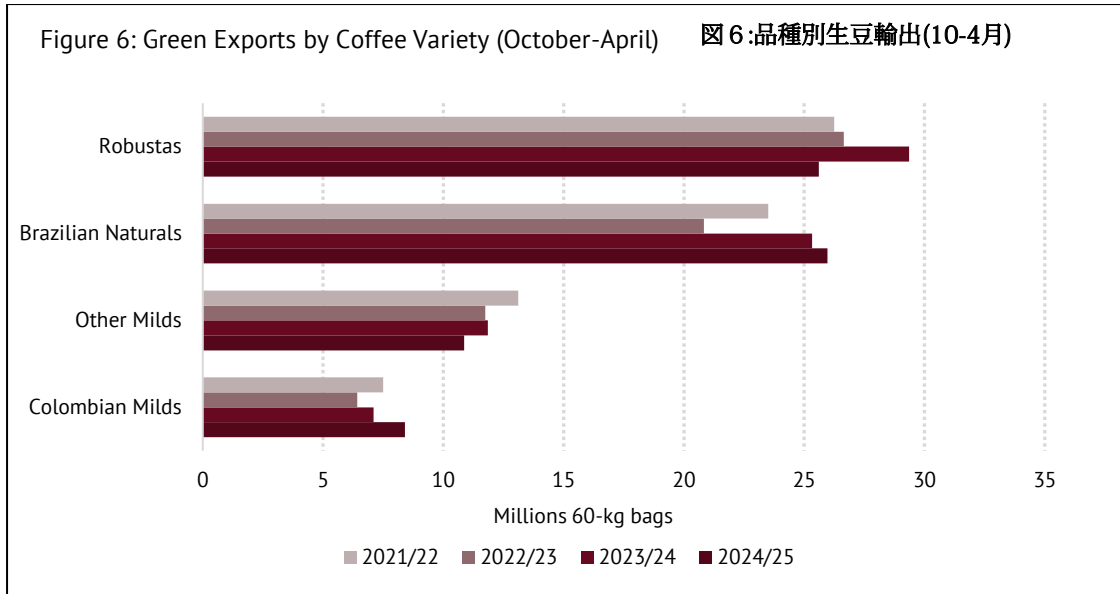
ICO複合指標価格のボラティリティは2025年5月平均で11.1%となり、4月から0.1ポイント低下した。コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジリアンナチュラルのボラティリティは前月比それぞれ0.1ポイント上昇、0.1ポイント低下、1.2ポイント上昇し、5月は11.3%、11.2%、12.8%だった。ロブスタとニューヨーク市場のボラティリティは5月も11.5%、12.4%で推移。ロンドン先物市場のボラティリティは0.2ポイント低下し11.5%となった。

ロンドン市場のロブスタ認証在庫は4月から5月で28.1%増の92万袋に、アラビカ認証在庫は9.4%増の93万袋に拡大した。



## コーヒーグループ別輸出-生豆

2025年4月の世界全体における生豆輸出量は1,020万袋となり、2024年4月の1,094万袋から6.8%減少した。コーヒー年度2024/25（10月～4月）では4度目の減少で、その主たる要因はブラジルナチュラルの落ち込みによるものである。結果として同期間の累計は7,065万袋となり、前年同期の7,379万袋から4.3%減少している。



コロンビアマイルドの輸出量は2025年4月に前年同月比1.1%増の87万袋（2024年4月は86万袋）に達した。19か月連続の増加で、コーヒー年度2024/25（2024年10月～2025年4月）の累計は前年同期比18.1%増の839万袋（前年同期実績710万袋）となった。

主たる要因はケニアで、同国の輸出量は14.0%増の10万袋（前年同月9万袋）に達した。今回の上昇はケニアにおけるコロンビアンマイルドの10か月連続プラス成長を示し、現コーヒー年度（2024/25年度）最初の7か月間の出荷量は57万袋（前年同期比70.8%増）と、過去24年の同時期で最大を記録した。高水準の国際コーヒー価格で取引が活発化し、在庫が取り崩されている事が、記録的輸出量の要因と推測される。一方、コロンビア本国からの輸出は0.4%減の71.8万袋（前年同月72.1万袋）となり、ケニアの2桁成長をほぼ相殺してコロンビアンマイルド全体の成長率を鈍化させた。2025年4月はコロンビア本国の輸出で17か月連続上昇後の初の減少にあたる。これはコロンビアンマイルドの輸出が本質的に悪化に転じた訳ではなく、2023/24年度の16.5%拡大の影響及び業界が天井に近づいていることを示唆しているにすぎない。

アザーマイルドの出荷量は2025年4月に前年同月比1.5%増の216万袋となった（2024年同月は213万袋）。主要な寄与国はエチオピアで11万袋の純増を果たしたが、メキシコの8万袋減がこれを相殺した。

ブラジリアンナチュラルの生豆輸出量は2025年4月に前年同月比14.4%減の319万袋となった（2024年4月は373万袋）。ブラジル本国が主因で、輸出量は22.7%減の240万袋（前年同月311万袋）に落ち込んだ。このマイナス成長はベース効果とブラジル産アラビカの強い循環性によるものだ。2023/24年度はブラジルナチュラルの表作にあたり、通年で21.7%増、2024年4月は前年同月比50.5%増を記録していた。エチオピアはマイナス影響を緩和する要因となり、輸出量は33.3%増の52万袋（前年同月39万袋）に跳ね上がった。この2桁増は、2024/25年度収穫の新物の前倒し出荷と高水準の国際価格を背景に在庫を大量放出した結果である。

ロブスタの生豆輸出量は2025年4月に前年同月比5.8%減の398万袋となった（2024年4月は423万袋）。減少の主因はブラジルで、輸出量は86.4%減の10万袋（前年同月76万袋）に落ち込んだ。これをある程度相殺したのがインドネシアとベトナムで、両国の合計輸出量は19.3%増の297万袋（同249万袋）に拡大した。ブラジルの急激な落ち込みは、2023年7月～2024年10月の期間に1,227万袋、ならびに2023/24年度に937万袋を輸出するなど、同国のロブスタ輸出が異常に高水準だった反動によるものである。2023/24年度の輸出量は、次年の2024/25年度における502万袋を436万袋上回る規模だった。

2024/25年度初めの7カ月（～2025年4月）における生豆輸出全体に占めるアラビカの比率は、前年同期の59.9%から63.3%に上昇している。

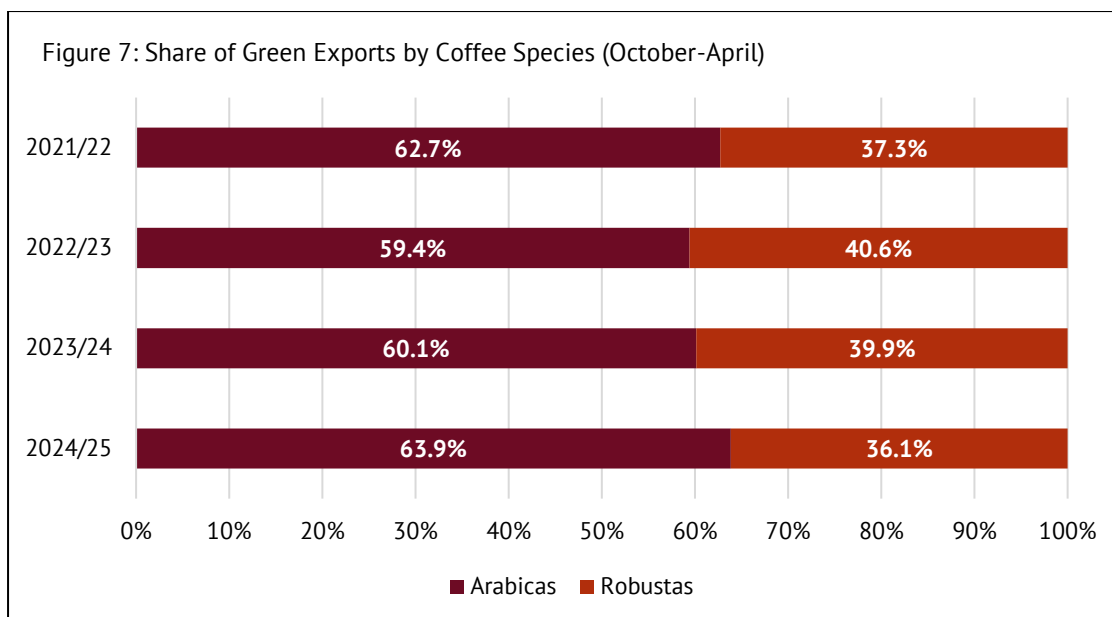
## 地域別コーヒー輸出量-全形態

世界全体の全形態コーヒー輸出量は2025年4月に前年同月比5.5%減の1,143万袋（2024年4月：1,209万袋）なった。年度累計は前年同期比3.5%減の7,851万袋（同8,139万袋）に落ち込んだ。4地域中3地域で輸出が拡大した一方、南米のみが6カ月連続で減少。2025年4月の南米シェアは32.5%と、2018年5月の27.1%以来の月間最低水準を記録した。

アジア・オセアニアの全形態コーヒー輸出量は2025年4月に前年同月比8.3%増の414万袋となった（2024年4月は382万袋）。成長を牽引したのはインドネシアとベトナムで、それぞれ39.1%増の56万袋（同40万袋）、9.5%増の284万袋（同259万袋）を記録。とりわけロブスタの国際価格が史上最高水準にあることを受け、在庫放出が増加したベース効果が大きく寄与している。

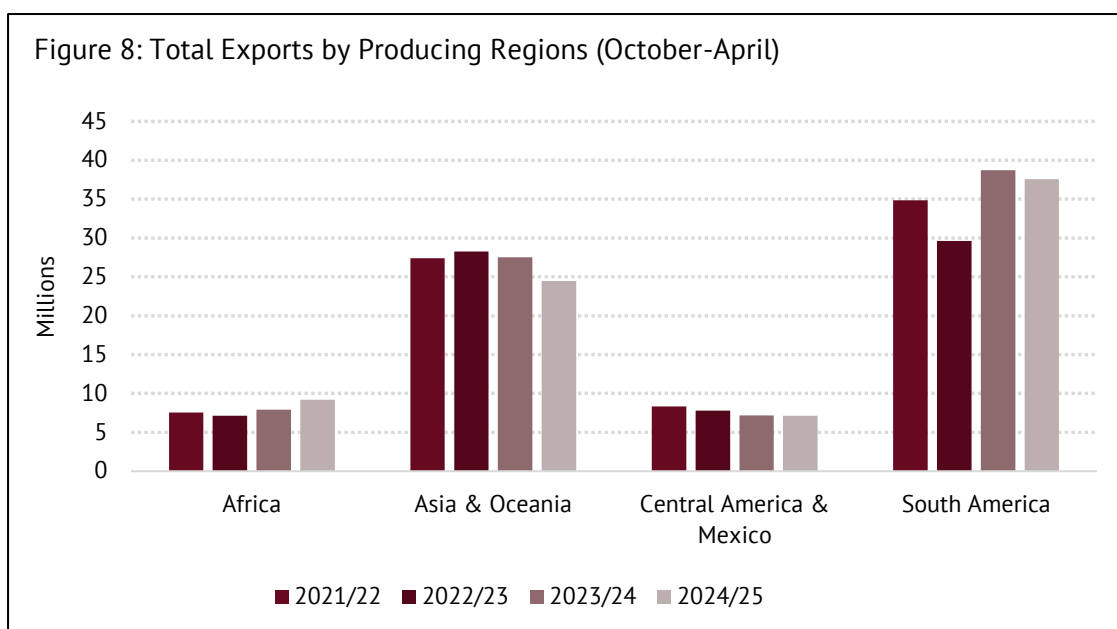


表7:生豆輸出量内訳(10-4月)



アフリカからの全形態コーヒー輸出量は2025年4月に前年同月比30.2%増の180万袋（2024年4月は138万袋）となり、17カ月連続のプラス成長を維持した。主因はエチオピアとウガンダで、それぞれ輸出量が42.1%増の81万袋、36.0%増の53万袋に拡大。両国とも豊作による供給増が国際コーヒー価格の高止まりと相まって前倒し出荷を促したとみられる。ウガンダコーヒー開発庁によれば、マサカおよび南西部の主収穫期における豊作が増加要因であったと説明されている。

表8：生産地域別輸出量(10-4月)



南米地域の全形態コーヒー輸出量は2025年4月に前年同月比28.4%減の371万袋（2024年4月は518万袋）となり、16カ月連続のプラス成長後、6カ月連続のマイナス成長に転じた。主因はブラジルで、同国の輸出量は34.1%減の281万袋（前年同月426万袋）に落ち込んだ。



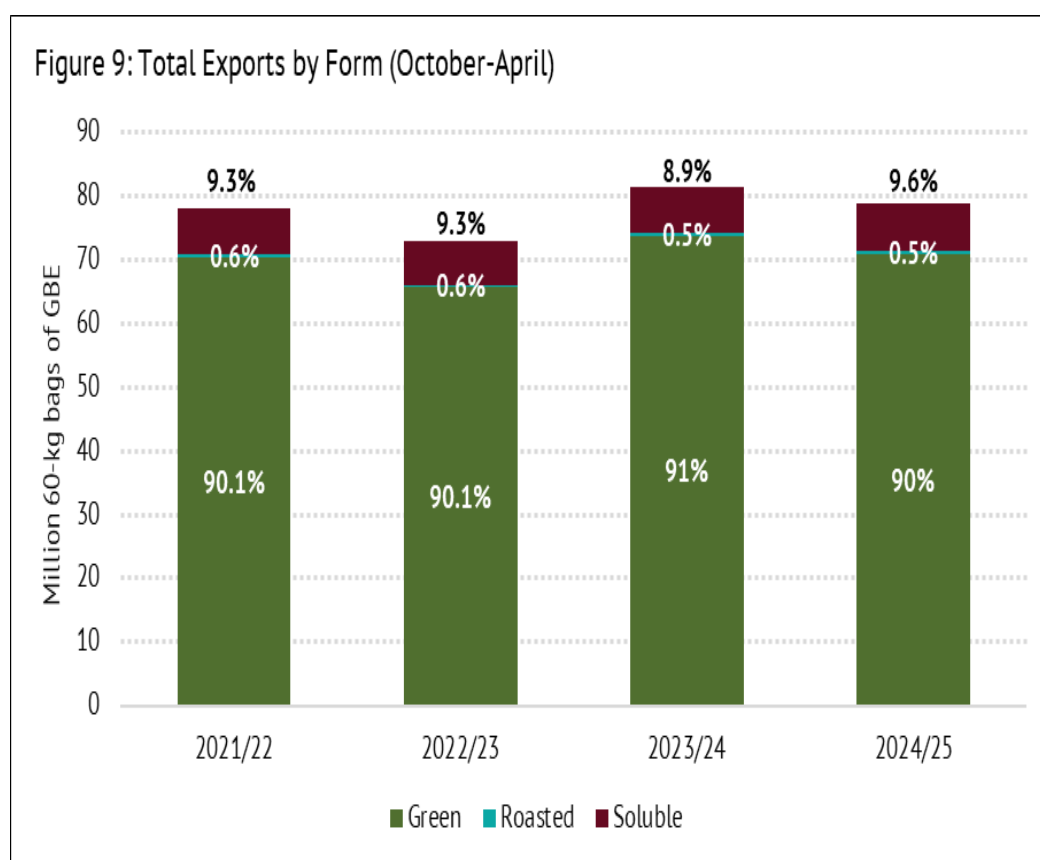
この落ち込みはベース効果と継続的な物流問題によるものとみられる。2023/24年度のブラジル輸出量は5,010万袋と史上最高を記録し、前年同期比で1,301万袋（35.1%）上回っていた。増加の大部分はベトナムの不作による供給逼迫への対応だったが、それが解消されたことでブラジル輸出は減少に転じた。2025年3月にはブラジルコーヒー輸出業者協議会（Cecafé）が物流ボトルネックにより63.8万袋の出荷見送りを報告。年初にはサプライヤー管理ソリューション提供企業ElloX Digitalが、2025年1月にブラジル主要港で302隻中203隻（67%）が遅延または寄港変更が発生したとのレポートを発表した。

メキシコ・中米地域の全形態コーヒー輸出量は2025年4月に前年同月比4.1%増の178万袋となった（2024年4月は171万袋）。この上昇は輸出が4.4%減となった2023/24年度の低迷に対する反動である。地域全体は2021/22年度以降、輸出が減少傾向にあり、2010/11年度以降は増加が3～4年、減少が3～4年続く循環パターンを描いている。COVID-19で混乱した2019/20年度を除けば、2023/24年度は4年連続のマイナス成長となり、2024/25年度はパターンが継続すれば再び3～4年続く“上昇サイクル”の幕開けにあたる。地域の主要牽引国はメキシコとニカラグアで、両国の輸出はそれぞれ10.7%増の34万袋、8.5%増の27万袋に拡大した。

### 形態別のコーヒー輸出量

ソリュブルコーヒーの輸出量は2025年4月に前年同月比6.0%増の113万袋（2024年4月：107万袋）に拡大した。

図9: コーヒー形態別輸出量



コーヒー年度2024/25年（2024年10月～2025年4月）における全形態輸出に占めるソリュブルコーヒーのシェアは9.5%と、前年度同期の8.8%から上昇。4月のソリュブルコーヒー輸出ではブラジルが最大輸出国となり、28万袋を出荷した。

焙煎豆の輸出量は2025年4月に前年同月比16.4%増の8.76万袋（2024年4月：7.53万袋）に達した。

表1：ICO指標価格と先物価格(US\$ cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
<b>Monthly averages</b>							
Jun-24	226.83	250.39	248.39	229.25	204.30	226.47	182.82
Jul-24	236.54	257.82	257.10	239.70	214.72	235.15	193.93
Aug-24	238.89	263.67	261.38	242.15	214.69	239.29	197.81
Sep-24	258.84	279.27	278.52	257.24	241.93	254.43	225.13
Oct-24	250.56	277.10	276.82	255.85	221.93	250.62	207.11
Nov-24	270.72	306.21	304.98	285.59	226.11	277.04	214.43
Dec-24	299.61	341.00	343.34	326.97	236.73	317.00	226.28
Jan-25	310.12	351.93	354.47	339.18	245.29	328.94	234.33
Feb-25	354.32	410.64	409.48	401.10	263.08	388.18	253.48
Mar-25	347.85	404.97	404.02	392.48	257.61	382.75	247.63
Apr-25	335.76	394.14	392.84	378.27	246.39	370.37	235.69
May-25	334.41	395.59	397.84	380.02	237.76	368.21	224.63
<b>% change between Apr-25 and May-25</b>							
	-0.4%	0.4%	1.3%	0.5%	-3.5%	-0.6%	-4.7%
<b>Volatility (%)</b>							
Apr-25	11.2%	11.2%	11.3%	11.6%	11.5%	12.4%	11.7%
May-25	11.1%	11.3%	11.2%	12.8%	11.5%	12.4%	11.5%
<b>Variation between Apr-25 and May-25</b>							
	-0.1	0.1	-0.1	1.2	0.0	0.0	-0.2

\* Average prices for 2nd and 3rd positions

表 2 価格差(US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jun-24	2.00	21.13	46.08	19.13	44.08	24.95	43.65
Jul-24	0.72	18.12	43.10	17.40	42.38	24.98	41.21
Aug-24	2.29	21.53	48.98	19.24	46.69	27.45	41.48
Sep-24	0.75	22.03	37.34	21.28	36.60	15.31	29.30
Oct-24	0.28	21.25	55.17	20.97	54.89	33.92	43.50
Nov-24	1.24	20.62	80.10	19.38	78.87	59.48	62.60
Dec-24	-2.34	14.03	104.27	16.37	106.61	90.24	90.72
Jan-25	-2.54	12.75	106.64	15.30	109.18	93.88	94.60
Feb-25	1.16	9.54	147.56	8.37	146.40	138.03	134.70
Mar-25	0.95	12.49	147.37	11.54	146.42	134.87	135.11
Apr-25	1.30	15.87	147.75	14.57	146.44	131.87	134.67
May-25	-2.25	15.57	157.83	17.83	160.09	142.26	143.58
<b>% change between Apr-25 and May-25</b>							
	-272.6%	-1.9%	6.8%	22.4%	9.3%	7.9%	6.6%

\* Average prices for 2nd and 3rd positions

表3: 世界のコーヒー需給バランス

Table 3: World Supply/Demand Balance

Coffee Year	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24*	% change
<b>PRODUCTION</b>	<b>169.8</b>	<b>168.4</b>	<b>170.8</b>	<b>168.0</b>	<b>168.2</b>	<b>178.0</b>	<b>5.8%</b>
Arabica	99.5	96.4	100.6	92.3	94.0	102.2	8.8%
Robusta	70.3	72.0	70.3	75.7	74.2	75.8	2.1%
Africa	18.5	18.5	19.2	19.3	17.9	20.1	12.1%
Caribbean, Central America & Mexico	21.3	19.2	19.7	18.9	19.2	18.7	-2.5%
South America	81.9	81.1	83.9	77.6	81.3	89.3	9.8%
Asia & Oceania	48.1	49.6	48.0	52.2	49.8	49.9	0.3%
<b>CONSUMPTION</b>	<b>171.2</b>	<b>168.6</b>	<b>169.9</b>	<b>176.6</b>	<b>173.1</b>	<b>177.0</b>	<b>2.2%</b>
Exporting Countries	52.5	52.2	53.1	54.4	55.1	56.5	2.6%
Importing Countries (Coffee Year)	118.6	116.4	116.8	122.2	118.1	120.5	2.1%
Africa	11.9	12.1	13.0	12.9	12.2	12.5	2.6%
Asia & Oceania	39.9	40.1	42.2	44.2	44.5	45.7	2.7%
Caribbean, Central America & Mexico	5.8	5.8	5.9	6.0	6.0	6.1	2.3%
North America	31.8	30.6	30.2	31.3	29.8	30.9	3.8%
South America	26.3	26.0	26.4	27.0	27.5	28.0	1.6%
Europe	55.5	54.0	52.2	55.2	53.1	53.7	1.1%
<b>BALANCE</b>	<b>-1.3</b>	<b>-0.2</b>	<b>0.9</b>	<b>-8.6</b>	<b>-4.9</b>	<b>1.0</b>	

\*preliminary estimates

表4: 輸出国 総輸出量

	Apr-24	Apr-25	% change	Year to Date Coffee Year		
				2023/24	2024/25	% change
<b>TOTAL</b>	<b>12,089</b>	<b>11,426</b>	<b>-5.5%</b>	<b>81,387</b>	<b>78,513</b>	<b>-3.5%</b>
Arabicas	7,355	6,908	-6.1%	48,334	49,119	1.6%
Colombian Milds	941	967	2.7%	7,630	9,007	18.1%
Other Milds	2,402	2,551	6.2%	13,645	13,320	-2.4%
Brazilian Naturals	4,012	3,390	-15.5%	27,060	26,792	-1.0%
Robustas	4,734	4,518	-4.6%	33,053	29,394	-11.1%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available upon subscription

表5: ニューヨーク先物市場とロンドン先物市場の認証在庫

Table 5: Certified stocks on the New York and London futures markets

	May-24	Jun-24	Jul-24	Aug-24	Sep-24	Oct-24	Nov-24	Dec-24	Jan-25	Feb-25	Mar-25	Apr-25	May-25
New York	0.84	0.86	0.87	0.91	0.87	0.91	0.95	1.03	0.91	0.84	0.80	0.85	0.93
London	0.78	0.97	0.99	1.01	0.74	0.66	0.65	0.73	0.76	0.72	0.74	0.71	0.92

In million 60-kg bags

### 表3 補足説明

各年度、事務局は加盟国から提出された統計を用い、生産・消費・貿易・在庫の年次推計および予測を作成する。ICC-120-16文書の段落100にあるとおり、加盟国からの情報が不完全、遅延、または不整合な場合には、他の情報源のデータも併用・補完する。非加盟国についても、需給バランスシートを作成する際には複数の情報源を考慮する。

事務局は世界全体の需給分析にあたり、各年10月1日に始まるコーヒー年度（マーケティングイヤー）の概念を採用している。コーヒー生産国は地域によって作付期が異なり、1回の収穫から次の収穫までを作付期（4月～翌3月、7月～翌6月、10月～翌9月）とする。このため、各国の作付期ベースの生産量を収穫月に応じてコーヒー年度ベースに換算し、一貫した需給分析を可能にしている。

たとえば、2020/21コーヒー年度は2020年10月1日～2021年9月30日にあたる。一方、作付期が4月始まりの国では、2020/21作付期（2020年4月1日～2021年3月31日）がコーヒー年度2020/21の前半、2021/22作付期（2021年4月1日～2022年3月31日）がコーヒー年度2021/22の後半にあたる。事務局では両作付期の生産量を適切に配分し、1つのコーヒー年度生産量として集計する。

なお、各国のコーヒー年度生産量見積は、あくまで分析目的で需給バランスを一貫して集計するための数値であり、各国の実際の収穫量を完全に反映するものではない点に留意が必要である。

注：本資料の全部または一部は、国際コーヒー機関（ICO）を出典として明示すれば、電子的・機械的手段を問わず複製・転載・送信が可能である。

\*\*\*\*\*